地域・社会のリーダーとして貢献できるグローバル人材の育成を目指して

SGH

島根県立出雲高等学校

本日の発表内容

①出雲高校SGHが目指すもの

②これまでの取組

・取組の内容

・指導体制

・評価

③これまでの主な成果

④SGHの効果

島根県立出雲高等学校の概要

学園の指標

(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実・勤勉にして、社会的秩序を重んじる学園
(3) 職員・師弟・校友相睦み合う、友愛協和の学園

育てたい人材

「地域・社会のリーダーとして貢献できる人材」

(1) 明確な目標を持ち、その実現に向けて努力する人材
(2) 常に探究心を持ち続け、視野の拡大を目指す人材
(3) 他人を思いやる心を持ち、互いの存在を認め合う人材

生徒個人の要請		地域・社会の要請
キャリア形成・自己実現への思い	SGH = SSH	将来のリーダー育成への期待

出雲高校のSGH

研究開発構想名

「自立」と「協働」により、地域・社会の核となるグローバル・リーダーの育成

研究開発の目的

①論理的思考力や国際社会に通用するコミュニケーション能力などの汎用的能力と、生まれ育った地域や国際社会に関する、幅広く、深い教養を備えた、「自立」した個人を育てる教育プログラムの開発

②他者との「協働」により、新たな価値あるものを創出し、国際社会に発信できる人材を育てる教育プログラムの開発

③世界の持続的な発展に向け、「自立」と「協働」により創造的提案をし、地域・社会の核となる、グローバル・リーダーとしての資質・能力を高める教育プログラムの開発

地域・社会のリーダーとして貢献できるグローバル人材の育成を目指して①

「グローバル人材」とは

急速に進展するグローバル化社会をたくましく、しなやかに生き抜く人材

「地域・社会のリーダー」とは

地元地域が抱えている課題（人口減少・過疎化への対応、外国人増加に伴う多文化共生社会の構築、など）の解決を、国際的な視点で考えることのできる人材

↓

“Think Globally, Act Locally” の態度

地域・社会のリーダーとして貢献できる
グローバル人材の育成を目指して②

生徒の学びのあり方の抜本的見直し

「知識習得型」に極端に偏る学び

↓

新たな

出雲高校の「学びのスタイル」

の確立

地域・社会のリーダーとして貢献できるグローバル人材の育成を目指して③

出雲高校の「学びのスタイル」

①協働的な学習

〇教え合い、学び合いによる「新たな価値あるもの」の創造

〇地域、国際社会への発信

②客観的根拠に基づく思考

〇論理的に考える(Logical Thinking)

〇多角的・多面的に考える(Critical Thinking)

〇事実に基づいて考える(Data-based Thinking)

育成すべき資質・能力

学習指導要領改訂の視点

新しい時代に必要となる資質・能力

①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）

文部科学省『教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）』（H27.8.26）より

地域・社会のリーダーを育成するために

①実社会や実生活の課題解決につながる知識・技能の習得

②地域や国際社会の課題発見・解決に向けた思考力・判断力・表現力の育成

③学びを行動に結び付け、さらに新たな学びへと向かわせる情意・態度等の形成

SGH・SSH対象生徒の区分け

（H28.4.8現在）

	理数科	普通科		合計
		理系	文系	
3年	1 （39名）	4 （152名）	3 （121名）	8 （312名）
2年	1 （39名）	4 （150名）	3 （133名）	8 （322名）
1年	1 （42名）	7 （281名）		8 （323名）

SSH対象生徒
（H25年度入学生から）

SGH対象生徒
（H26年度入学生から）

出雲高校SGH・SSH高校3年間の取組

地域・社会の一員として生活するための基本的な資質・能力

実社会や実生活の課題解決につながる知識・技能の習得

地域・社会において周囲と関わる上で大切な資質・能力

地域や国際社会の課題発見・解決に向けた思考力・判断力・表現力の育成

地域・社会のリーダーを目指す上で必要となる資質・能力

学びを行動に結び付け、新たな学びへと向かわせる情意・態度等の形成

1年「科学的リテラシー」および「地域や国際社会に関する教養」を身に付ける

理数科
- 「ＳＳ基礎」（１単位）関西ＳＳ・ＳＧ研修
- 島根大学研修

普通科
- 「ＳＧベーシックセミナー」

2年「自ら課題を発見して意欲的に学んでゆく姿勢」を身に付ける

理数科
- 「ＳＳ探究 B」（２単位）シンガポール研修 海外研究機関からの遠隔授業

普通科
- 理系：「ＳＳ探究 A」（２単位）
- 文系：「ＳＧ探究」（２単位）
- サンタクララ海外研修（希望者）

3年「成果を積極的に発信していく力」を身に付ける

理数科
- 「ＳＳ探究 B」（１単位）

普通科
- 理系：「ＳＳ探究 A」（１単位）
- 文系：「ＳＧ探究」（１単位）

- SS・SGパワーアップセミナー（講演会）
- 島根大学との連携
- 出雲市・出雲科学館等との連携
- 高度な英語コミュニケーション能力の育成
- スカイプを利用した海外の高校生との意見交換
- 各種コンクール、コンテストへの参加
- 英語ディベート・英語スピーチ大会への参加

課題発見・解決型の学習

学校設定科目「ＳＧ探究」
（2年生2単位、3年生1単位）

〇ディベート演習（2年）
〇課題研究（2年）
〇留学生との意見交換（3年）
〇市長への政策提言（3年）

→ **出雲高校「学びのスタイル」の確立** →

各教科の学習へ

①協働的な学習

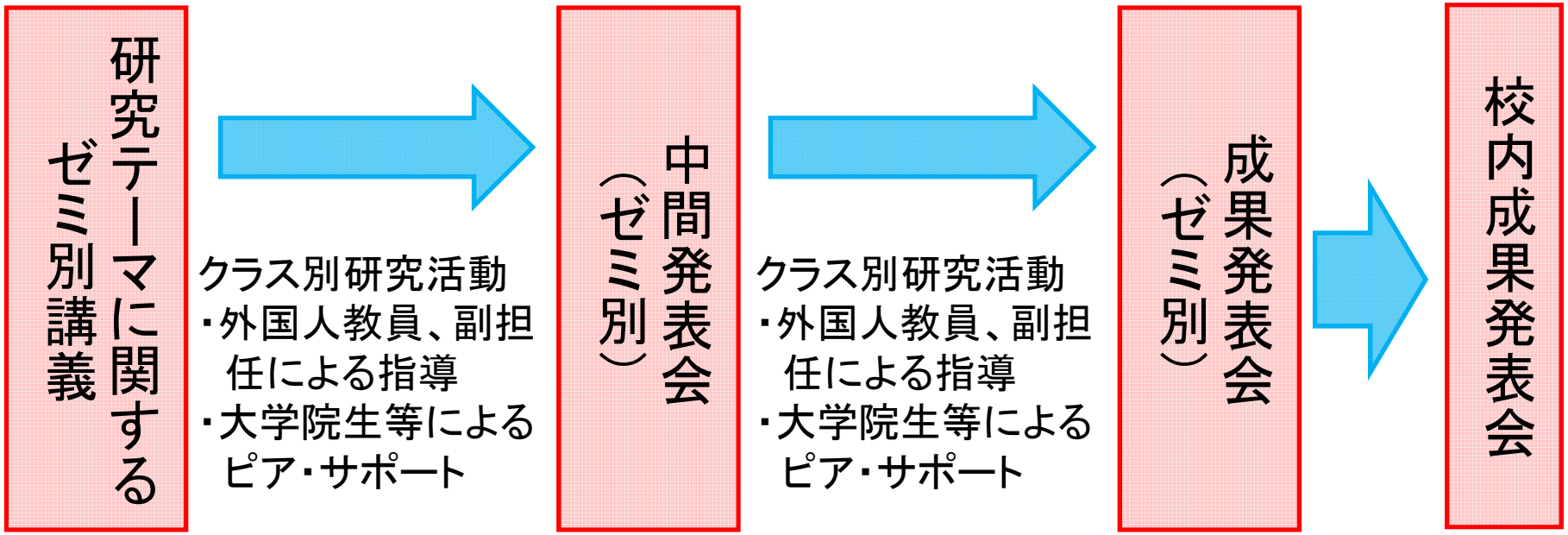
〇教え合い、学び合いによる「新たな価値あるもの」の創造
〇国際社会への発信

②客観的根拠に基づく思考

〇論理的に考える(Logical Thinking)
〇多角的・多面的に考える(Critical Thinking)
〇事実に基づいて考える(Data-based Thinking)

課題研究の流れ

〇研究遂行単位：グループ研究（４～６人／グループ）
〇グループの分け方：
①生徒個人の希望により、以下の3つのゼミに分かれる。
「国際政治・経済」「環境・エネルギー・食農」「地域文化・多文化共生」
②クラス内で同じゼミの生徒が集まり、興味・関心の分野が近い生徒でグループを結成する。



大学教員等による指導

大学教員・大学院生等による指導・助言

大学教員・大学院生等による指導・助言

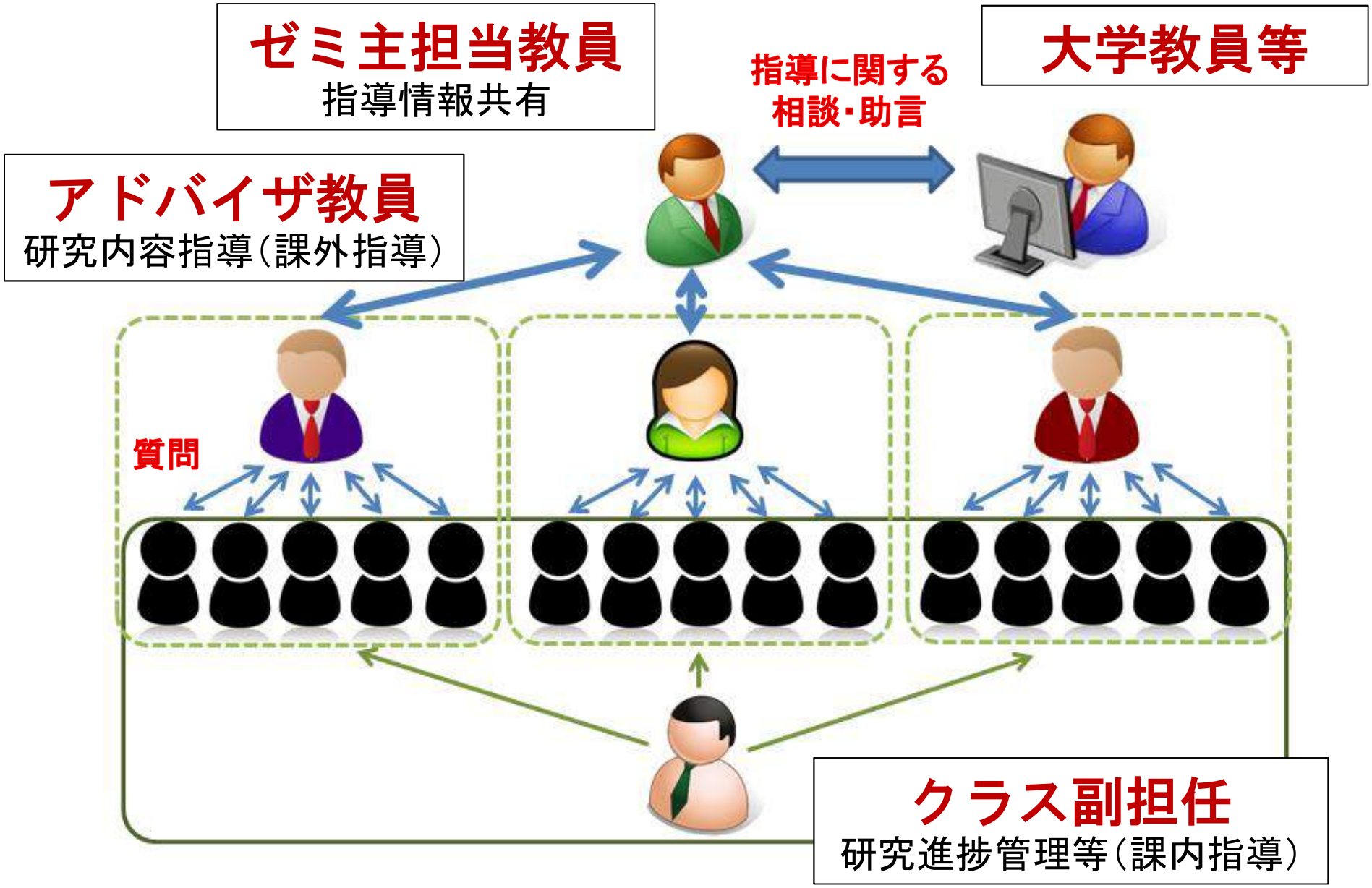
複数の指導者による指導

大学教員等による指導・助言

外国人教員による指導

大学院生等によるピア・サポート

課題研究の全校指導体制①



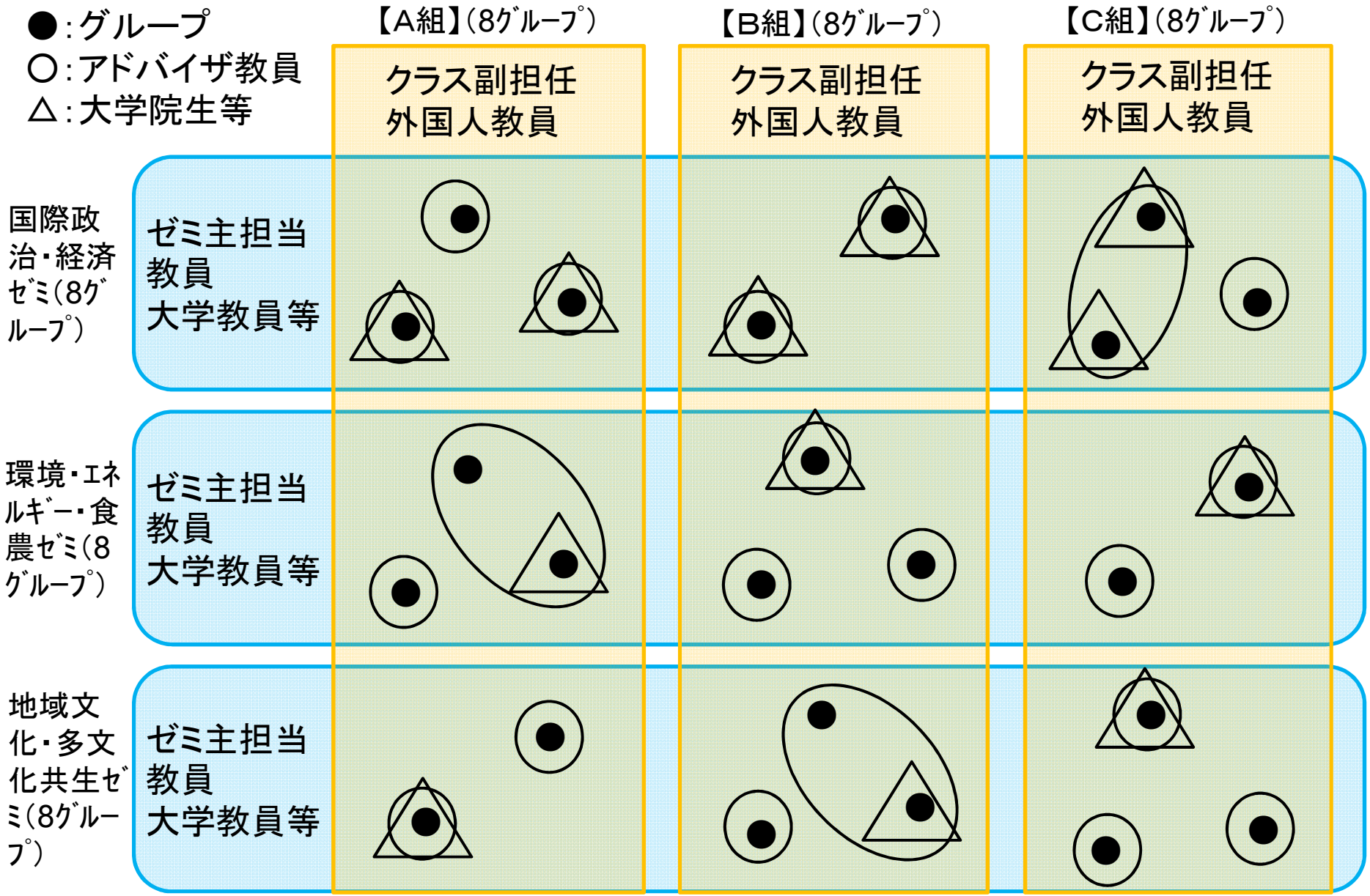
課題研究の全校指導体制②

指導教員等	役割
クラス副担任 （授業担当）	・クラスの課題研究の進捗管理 ・研究活動の全般的な相談窓口
ゼミ主担当教員	・ゼミ別講義、ゼミ別発表会等の運営 ・研究活動・内容に関する大学教員へのメール等による相談
アドバイザ教員	・担当するグループの研究活動・内容に関する放課後等を利用した指導
外国人教員	・研究活動・内容に関する指導 ・研究レポートの英語表記に関する指導
外部指導教員 （大学教員等）	・研究活動・内容に関するメール等（または直接）による指導 ・ゼミ別講義、ゼミ別発表会での指導・助言
大学院生等	・担当するグループの研究活動・内容に関するピア・サポート

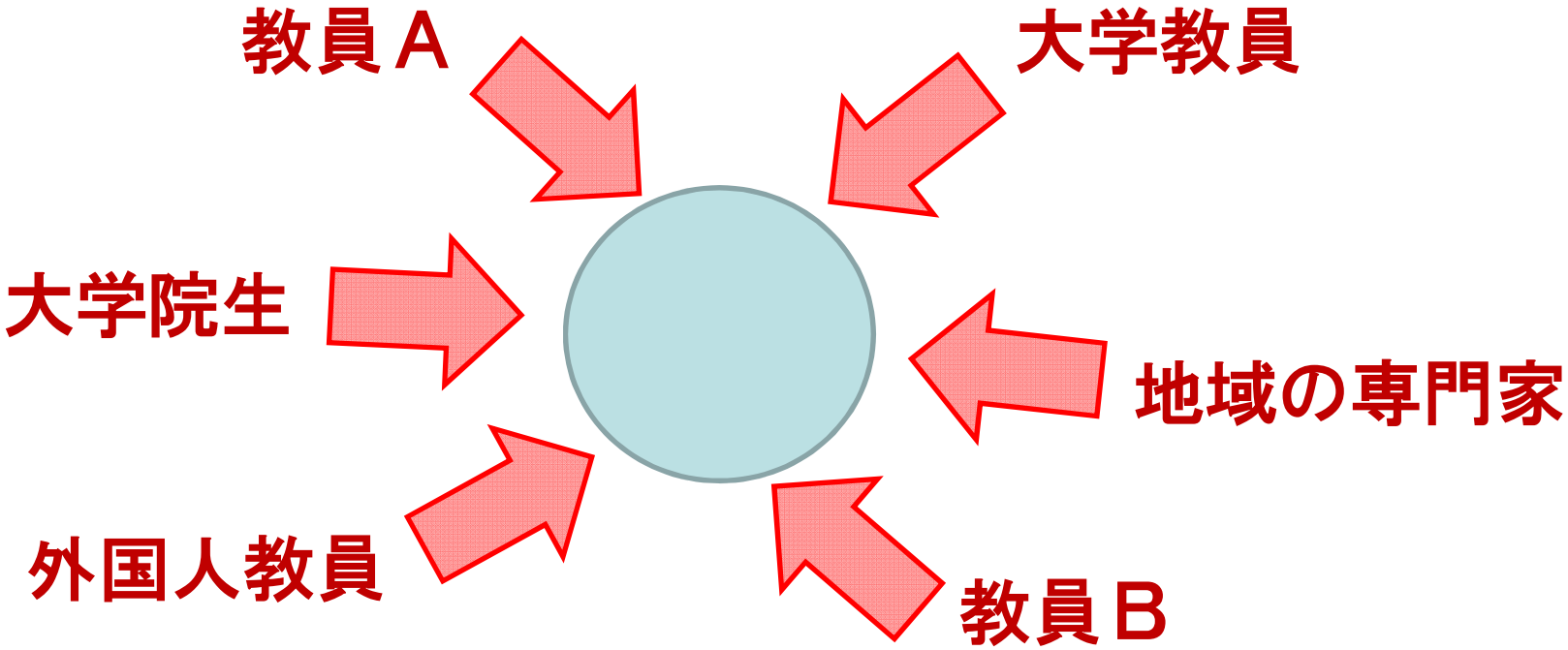
※赤字の教員等が、課題研究の時間に常時生徒の直接指導にあたる指導者

複数の教員が関わる多角的・多面的指導体制①

●：グループ
○：アドバイザ教員
△：大学院生等



複数の教員が関わる多角的・多面的指導体制②



〇１人の生徒（あるいは1つのグループ）に対して
〇（学校内・外の）複数の教員が
〇それぞれの専門性を生かした異なる角度から指導する

『出雲モデル』の確立へ → 多角的・多面的な思考（Critical Thinking）

複数の教員が関わる多角的･多面的指導体制③

探究活動テキスト（生徒・指導者へ配付）

地域・社会との関わりから学びを深める活動①

島根大学におけるグローバルセッション（３年生対象）

【1日目】

〇講義・演習

「グローバル社会で活躍するためのコミュニケーション力」等

〇国際協力の現状を知るためのワークショップ

【2日目】

〇島根大学留学生に向けた課題研究成果の英語によるプレゼンテーション・ディスカッション

・なぜ日本庭園は海外に広く受け入れられているのか

・なぜ和食はアジア・ヨーロッパを中心に広まっているのか

・どうしたら日本人は英語が話せるようになるのか

・日本と世界のアニメ文化の違いとは

など12テーマ

（１日目）ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの講義・演習

（１日目）貿易ゲーム

（２日目）島根大学留学生へのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ・意見交換

地域・社会との関わりから学びを深める活動②

地域創生に向けた高校生からの提案（３年生対象）

【１日目】

カテゴリー別に出雲市職員への政策提言プレゼンテーション・ディスカッション

＜カテゴリー＞

①地域の財政：　「ゆるキャラとふるさと納税」など3テーマ
②地域の魅力化：「宿場町出雲の復活」など3テーマ
③地域の産業：　「出雲の和菓子販売」など3テーマ
④地域の教育：　「ふるさと教育の活用」など3テーマ

【２日目】

出雲市長への政策提言プレゼンテーション・ディスカッション

（１日目）出雲市職員とのディスカッション

島根日日新聞　©島根日日新聞社 2015年　平成27年（2015年）7月30日（木曜日）

島根日日新聞

平成27年（2015年）7月30日（木）

発行所 島根日日新聞社

地域創生に若者目線

SGH指定の出雲高生　市長に12の政策提案

文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている出雲高校（二上昭憲校長、出雲市今市町）の3年生56人が、長岡秀貴市長に地方創生に関連した12の政策を提案した。

SGH事業の一環として昨年度行った課題研究の内容を、市職員らの質問を聞きながら提言として再度見直し、市長に提案することで、研究成果を地域社会に還元する目的で行われた。

提案は、地方自治・地方財政、地域経済・商工業、観光・地域の魅力化、環境問題・エネルギー政策の4項目に分け、各3グループずつ行った。

地方自治では、子どもにも親しみやすく、出雲の利点である出雲大社などの神話性や美肌効果を盛り込んだテーマパーク、

市長に政策を説明する生徒たち＝29日、出雲高校

全国が展示されている「フニミとタクロー」

H27.7.30付け島根日日新聞１面

（２日目）出雲市長への政策提言

全校生徒を牽引するグローバル・リーダーの育成①

グローバル・リーダーシップ・プログラム

目的

将来、地域・社会のリーダーとしての活躍が期待できる人材を早期に選抜し、高校段階からその資質・能力を磨き、大学へとつなげる

参加者選考方法

第１次選考：日本語による志望理由書、小論文テスト（日本語）、英語基礎力テスト

第２次選考：日本語による面接、英語による面接

プログラムの内容

①外部機関主催の各種リーダー研修への参加
②外国人への通訳案内などボランティア活動への参加
③英語スピーチなど各種コンクール・コンテストへの参加
④各種研究発表会での課題研究成果等の発表
⑤「英語４技能育成プログラム」の受講
⑥米国の高校生とのスカイプを利用した意見交換会への参加
⑦米国サンタクララ市周辺への海外研修　　など

米国の高校生とのスカイプを利用した意見交換

米国サンタクララ海外研修

福井県立高志高校主催
Global Leaders Campへの参加

JICA中国主催
高校生国際協力体験ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑへの参加

全校生徒を牽引するグローバル・リーダーの育成②

島根大学の短期留学生に出雲大社を案内するボランティア活動

出雲大社

身ぶり交え懸命に

出雲高生 留学生を英語で案内

留学生（右）に手水舎で手の清め方を説明する生徒＝出雲市大社町杵築東、出雲大社

出雲高校（出雲市今市町）の生徒が10日、島根大学（松江市西川津町）に短期留学している外国人に英語でガイドをしながら、出雲市大社町杵築東の出雲大社を案内した。

ボランティア活動の一環で出雲高が企画し、英語や国際交流に興味を持つ1、2年生計18人が参加。島根大のサマースクールに参加するため4日から15日まで島根県内に滞在する米国や中国からの留学生をガイドした。

生徒は緊張しながらも、事前に準備した資料を使って参道や社殿について英語で説明し、「二礼四拍手一礼」の参拝方法や、手水舎での手と口の清め方などはジェスチャーを交えて伝えた。道中では自己紹介し合い、会話を弾ませた。

2年の福原実紘さん（16）は「なかなか言葉が出ない中、ジェスチャーを入れて一生懸命伝えようとしたら分かってくれた。思い切ってしゃべることが大切だと感じた」と話した。

（月森かな子）

H28.7.11付山陰中央新報

地域・社会のリーダーとして
「主体的に行動できる人材」

「学び」⇨「行動」⇨「新たな学び」へ

課題研究の評価①

評価の観点（６観点）

①学習に向かう意欲・態度
②論理的思考力
③コミュニケーション能力
④問題解決能力
⑤情報活用能力
⑥プレゼンテーション能力

評価者、評価の対象・方法

観点	評価者	評価の対象	評価の方法
②④⑤	ゼミ主担当教員 副担任	研究レポート 発表用資料	ルーブリックを利用 大学教員等の意見を参考
⑥	ゼミ主担当教員 副担任	中間発表 成果発表	ルーブリックを利用 大学教員等の意見を参考
①③⑤	アドバイザ教員	生徒の自己評価（ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵﾌｧｲﾙに記述）	ルーブリックを利用

課題研究の評価②

ルーブリックによる生徒の多様な能力評価

〇島根大学教育学部　深見俊崇准教授との共同開発

〇ルーブリック評価の目的

①生徒のパフォーマンスを定量的に絶対評価を行うことで、その後の指導に生かす。

②複数の教員が評価を行っても差が出ないような、公平性・客観性のある評価を行う。

③生徒に評価の観点をあらかじめ示すことで、生徒の学習への意欲を高めるとともに、評価の信頼性・納得性を担保する。

課題研究の評価③

ルーブリックによる生徒の多様な能力評価①

評価の観点	評価規準	評価項目	4 （十分できている）	3 （できている）	2 （やや不十分である）	1 （不十分である）
②論理的思考力	客観的根拠や学術的理論に基づいて論理的に思考し、自らの考えを組み立てることができる。	客観的根拠や学術的理論に基づいているか。	先行研究について多角的に調査し、その内容について分かりやすく整理して述べられている。	先行研究について調査し、その内容について整理して述べられている。	先行研究が十分に調査されておらず、その内容について整理して述べられていない。	先行研究が調査されておらず、その内容について述べられていない。
		論理的な組み立てがなされているか。	事実と意見の区別が明確になされ、誰もが納得する論理展開がなされている。	事実と意見の区別がなされ、論理展開に飛躍がない。	事実と意見の区別が曖昧であり、論理展開にやや飛躍が見られる。	事実と意見の区別がなされておらず、論理展開に飛躍がある。
④問題解決能力	客観的事実に基づいて現状の課題を発見・分析し、その解決に向けた自らの考えを構築することができる。	現状の課題を発見・分析できているか。	文献等の調査が多角的になされ、現状の課題について分かりやすく整理して述べられている。	文献等の調査がなされ、現状の課題について整理して述べられている。	文献等の調査がやや不十分であり、現状の課題について整理して述べられていない。	文献等の調査が不十分で、現状の課題について述べられていない。
		課題の解決に向けた自らの考えを構築しているか。	現状の課題について深く分析し、その解決に向けた自らの考えが分かりやすく整理して述べられている。	現状の課題について分析し、その解決に向けた自らの考えが整理して述べられている。	現状の課題について十分に分析されておらず、その解決に向けた自らの考えが整理して述べられていない。	現状の課題について分析されておらず、その解決に向けた自らの考えが述べられていない。

課題研究の評価④

ルーブリックによる生徒の多様な能力評価②

評価の観点	評価規準	評価項目	4（十分できている）	3（できている）	2（やや不十分である）	1（不十分である）
⑤情報活用能力	情報についての基本的な知識・モラルのもとに、その収集方法を身に付け、集めた情報を整理・分析し、活用することができる。	情報の正しい収集方法を身に付けているか。	信頼のおける情報を多角的に入手し、その出所について整理して示されている。	信頼のおける情報を入手し、その出所について示されている。	入手した情報の信頼性にやや欠け、その出所がやや不明確である。	信頼のおけない情報にアクセスし、その出所が不明確である。
		集めた情報を活用できているか。	集めた情報の内容を分かりやすく整理・分析し、それを適切に活用しながら論理を展開している。	集めた情報の内容を整理・分析し、それを活用しながら論理を展開している。	集めた情報がやや整理されておらず、それを活用した論理展開がやや不十分である。	集めた情報が整理されておらず、それを活用した論理展開がなされていない。
⑥プレゼンテーション能力	学習や研究の成果を文章やスライドに分かりやすくまとめ、その内容を的確に説明することができる。	研究成果を適切にまとめているか。	研究成果について分かりやすく整理してまとめられている。	研究成果について整理してまとめられている。	研究成果の整理がやや不十分である。	研究成果の整理が十分になされていない。
		スライドを分かりやすく作成しているか。	スライドが誰にでも見やすく、見る人の理解を促進する表現で作成されている。	スライドが見やすく、分かりやすい表現で作成されている。	スライドがやや見にくく、やや分かりにくい。	スライドが見にくく、分かりにくい。
		発表内容を分かりやすく的確に説明しているか。	発表内容について誰にでも分かりやすく整理され、聞く人の理解を促進する表現で説明している。	発表内容について整理され、的確な表現で説明している。	発表内容についての整理がやや不十分で、説明がやや分かりにくい。	発表内容についての整理がなされておらず、説明が分かりにくい。

課題研究の評価⑤

ポートフォリオファイル

自己評価カード

（　　）年（　　）組　（　　グループ）　氏名（　　）

グループでの研究活動における、自らの役割や取り組みについて、観点別に振り返ろう。

ふり返りの観点

観点	A 満足	B おおむね満足	C もっと努力が必要
学習に向かう意欲・態度	グループ活動を円滑にするために積極的に行動した。	自身の役割を明確に意識し活動に取り組んだ。	言われたことだけをこなす状態だった。
コミュニケーション能力	話し合いや議論で他者の意見を受け入れながら、積極的に発言・発信した。	話し合いや議論に参加することはできた。	話し合いや議論の中で発言があまりできなかった。
情報活用能力	本時の活動で必要な情報を収集した上で、グループで共有できるように整理できた。	本時の活動で必要な情報を収集することができた。	本時の活動で必要な情報が集められたかわからない。

日付	観点	評価	取組についてのコメント(2～3 行は書くこと)	検印
	学習に向かう意欲・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			
	学習に向かう意欲・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			
	学習に向かう意欲・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			

【アドバイザ教員評価】(上記3回の活動について)

評価日	綴じ込まれている記録について	取組についてのコメントについて	アドバイザ教員からのコメント
	A・B・C	A・B・C	

課題研究の評価⑥

生徒個人の活動についてのルーブリックによる評価

評価項目	A（優れている）	B（できている）	C（できていない）
綴じ込まれている記録について	学習の履歴が分かるように細かなメモ・印刷した資料なども含めて整理されている。	時系列に整理されていて学習の履歴が分かる。	順番がバラバラで学習の履歴がわからない。
コメントについて	積極的に受講し、そこで学んだことを次に活かしていこうという姿勢をみることができる。	教員の指示に従い、意識的に課題に取り組んだという姿勢をみることができる。	積極的に受講したようには思われない（コメントが少ないなど）。

生徒の論理的思考力の評価①

論理的思考力客観テスト

○島根大学教育学部　御園真史准教授との共同開発

○論理的思考力客観テストの概要

①実施時期

第1学年4月、第1学年1月、第2学年1月

②実施方法

マークシート方式（20分）、記述方式（20分）

③内容

同一問題を出題し、生徒の変容を調査

※一部、PISA2003調査から同一問題を出題

生徒の論理的思考力の評価②

「休暇旅行」の問題

町と町をつなぐ道路の地図と各町間の最短距離が与えられた状況で、

(1)特定の2つの町の間の道路上での最短距離を計算する問題

(2)1日に300キロメートルまでしか移動できない、各町間では一泊キャンプすることが可能である、どの町でも2晩は泊まるという条件のもとで、旅程をたてる問題

		出雲高校2015年1月			PISA2003	
		1年生	2年生	全体	OECD平均	日本
(1)		75.8%	75.1%	**75.5%**	45.9%	53.3%
(2)	部分正答	3.9%	5.4%	**4.6%**	4.3%	2.9%
	完全正答	64.4%	61.3%	**62.9%**	33.5%	39.6%

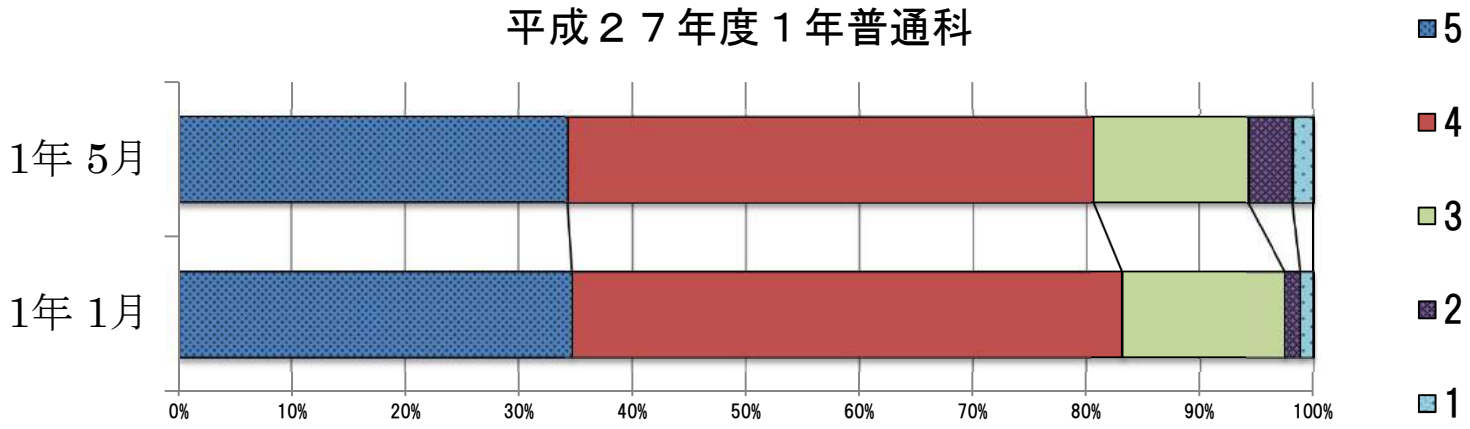
結果

問題の内容について、大まかに考えることができるが、**精緻に考えたり、精密に考えたりする力が十分でない生徒が見受けられる。**そういった力の育成が課題であると考えられる。

これまでの主な成果①

（1）本校の「学びのスタイル」～協働的な学習～が確立した

生徒意識調査「あなたは、他の人と協同して学習することが大切だと思いますか」



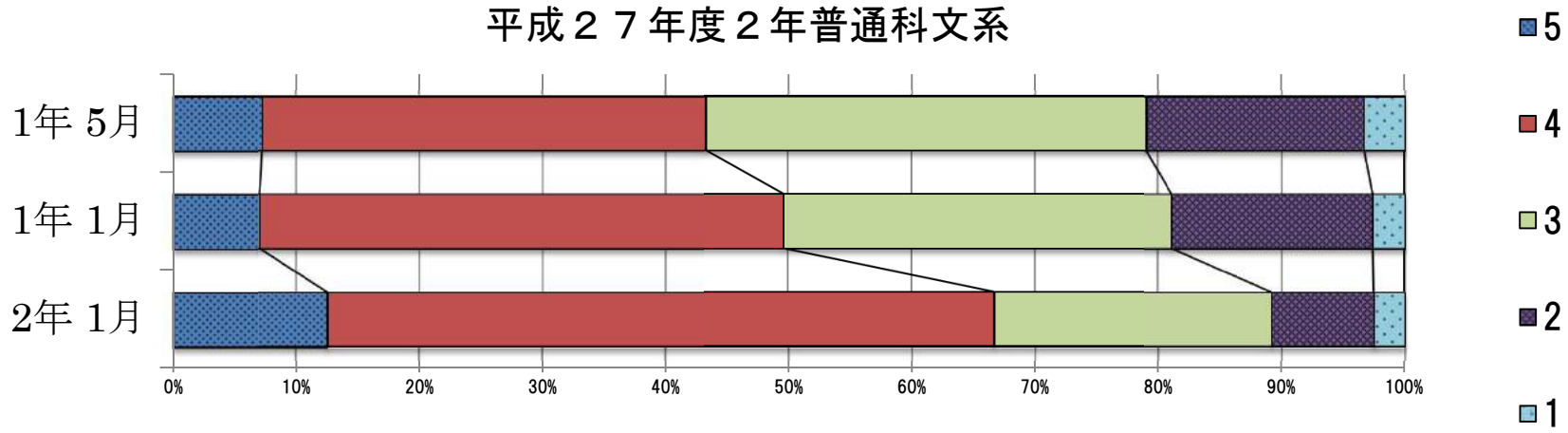
全教室備え付けの小型ホワイトボード

ホワイトボードを利用したグループ討議

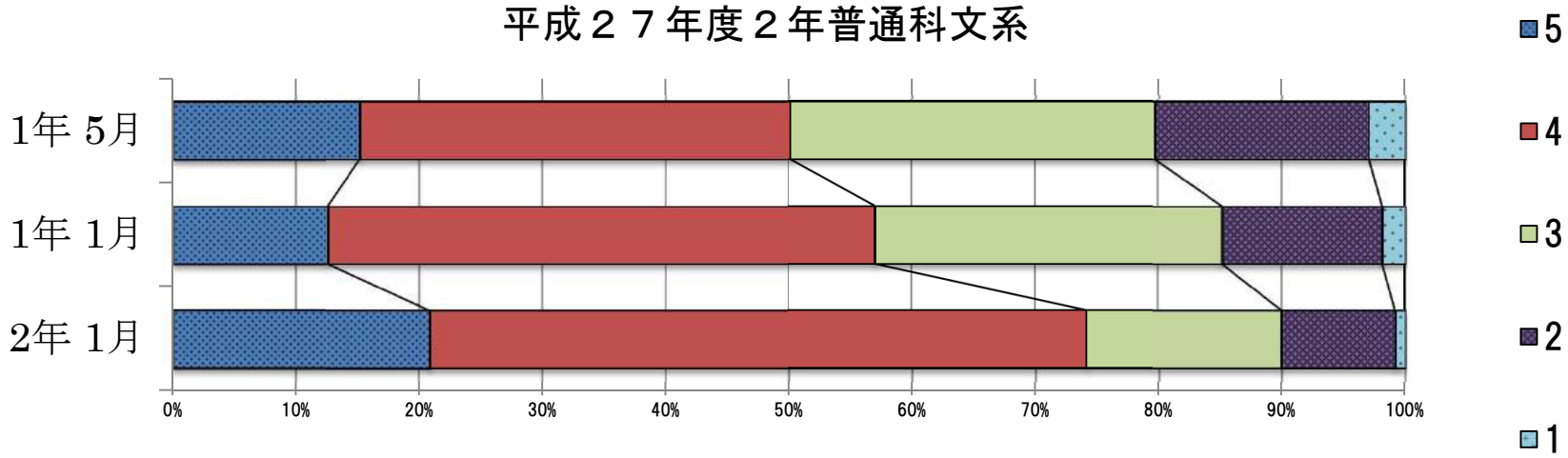
これまでの主な成果②

（2）地域や国際社会への興味・関心が醸成された

生徒意識調査「あなたは、身近な地域の事柄や課題に興味・関心がありますか」



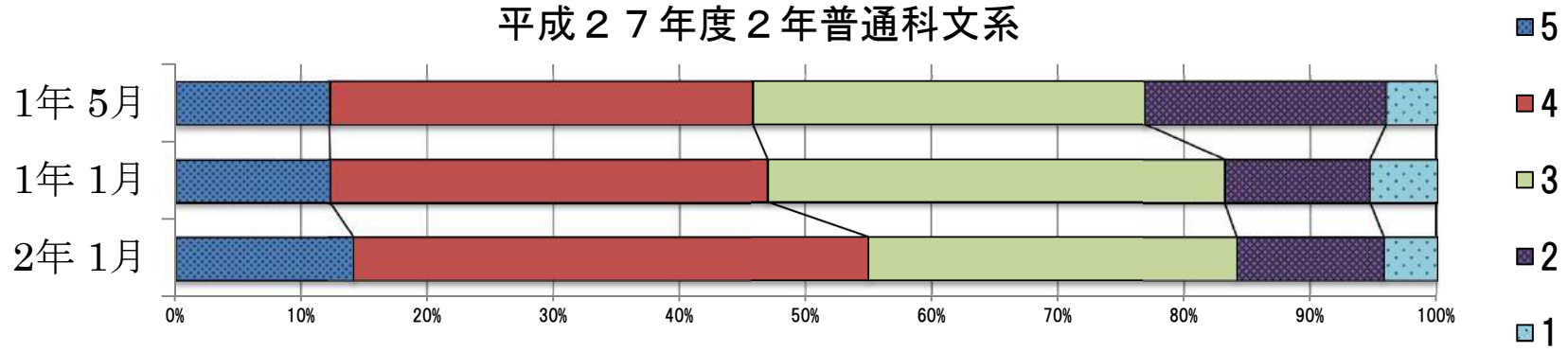
生徒意識調査「あなたは、国際的な社会課題に興味・関心がありますか」



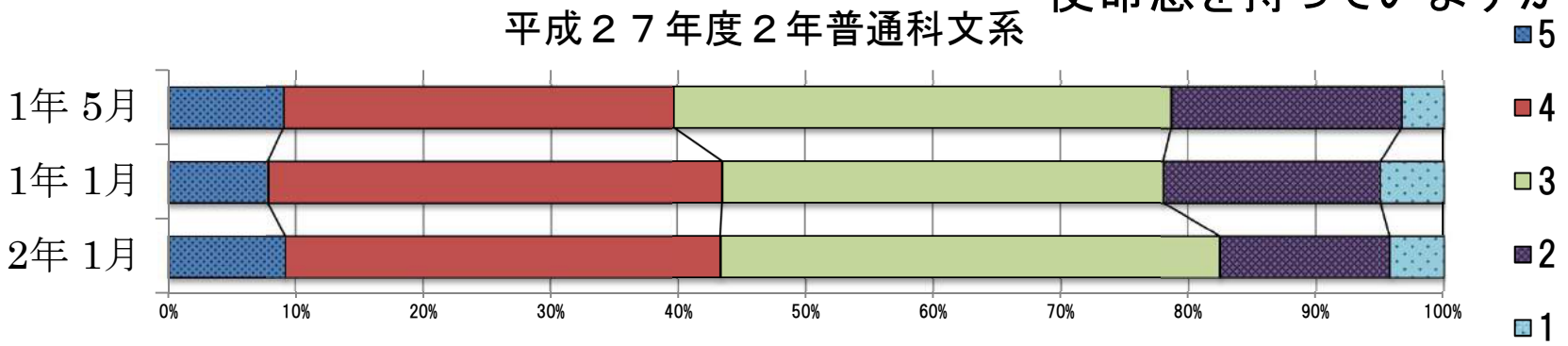
これまでの主な成果③

（3）地元地域や国際社会のために貢献しようとする使命感が醸成された

生徒意識調査「あなたは、将来、地元地域のために貢献すべきだという使命感を持っていますか」



生徒意識調査「あなたは、将来、国際社会のために貢献すべきだという使命感を持っていますか」



これまでの主な成果④

（4）4技能のバランスがとれた英語コミュニケーション能力が育成された

平成27年度GTEC for STUDENTS学年別平均スコア

	2年生				1年生		
	H26.12	H27.12	前年度生	前年度生との差	H27.12	前年度生	前年度生との差
リーディング	172.5	185.7	181.7	4.0	167.2	172.5	-5.3
ライティング	115.6	124.9	123.2	1.7	119.9	115.6	4.3
リスニング	171.8	191.2	186.2	5.0	181.7	171.8	9.9
スピーキング	—	100.7	98.2	2.5	—	—	—
ﾄｰﾀﾙ(S除く)	459.9	501.8	491.1	10.7	468.8	459.9	8.9

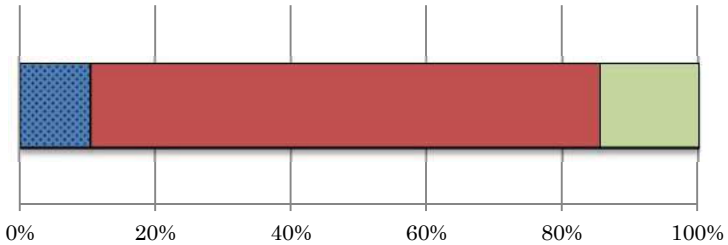
これまでの主な成果⑤

（5）情報モラルに基づく情報収集・活用能力が育成された

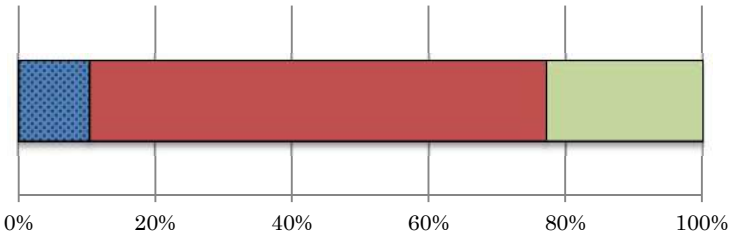
平成27年度2年生「SG探究」課題研究

教員による研究レポートの観点別ルーブリック評価（4段階）

「情報の正しい収集方法を身に付けているか」（平均値：2．96）



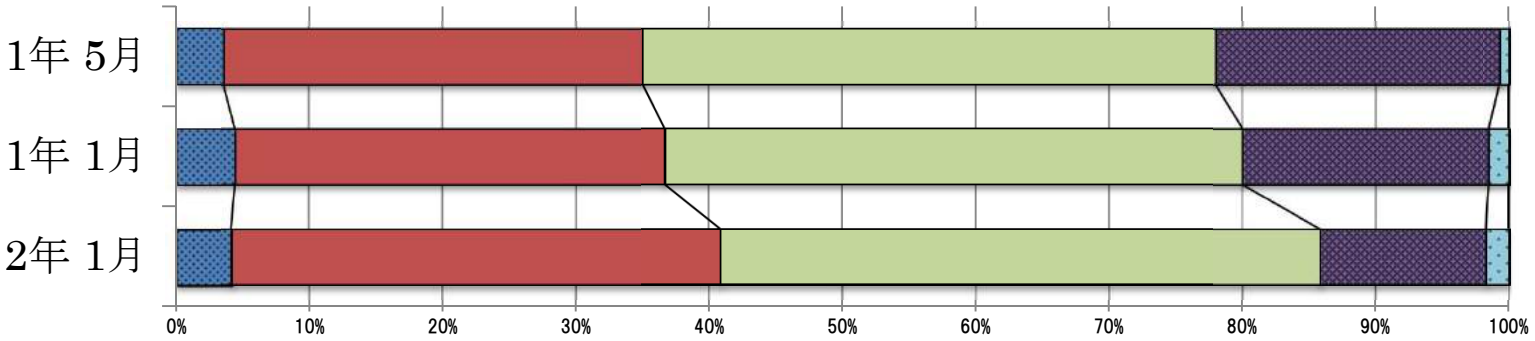
「集めた情報を活用できているか」（平均値：2．88）



4
3
2
1

生徒意識調査「あなたは、様々な情報を集め、整理する力があると思いますか」

平成２７年度２年普通科文系



5
4
3
2
1

これまでの主な成果⑥

（6）島根大学をはじめ外部諸機関との連携が推進された

外部諸機関の人材の本校への派遣人数（延べ人数）

	島根大学教員等（大学院生等含む）	その他外部機関	合計
平成26年度	393名	8名	401名
平成27年度	228名	69名	297名

広報いずも198号（H27.8.20発行）

地方創生をテーマに、出雲高校生が市長に政策提案

（7）保護者をはじめとした地域全体の理解が醸成された

保護者アンケート

「SSH・SGHの取組が、学校の教育活動の充実や活性化に役立つ」と回答した保護者の割合

平成26年度　：　80％

平成27年度　：　85％

SGHの効果①

『何ができるようになるか』

・新しい時代に必要となる資質・能力
・「何を学んだか」の一歩先へ

①何を理解しているか、何ができるか	②理解していること・できることをどう使うか	③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
ＳＧベーシックセミナー　など	ディベート演習 課題研究　など	政策提言、留学生との意見交換 ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　など
実社会や実生活の課題解決につながる知識・技能の習得	地域や国際社会の課題発見・解決に向けた思考力・判断力・表現力の育成	学びを行動に結び付け、新たな学びへと向かわせる情意・態度等の形成

地域や国際社会の諸課題を発見し、その解決に向けて、他と協働しながら粘り強く学び続ける人材

地域・社会のリーダーとして貢献できるグローバル・リーダー

SGHの効果②

『どのように学ぶか』　アクティブ･ラーニング型授業による授業改善

①協働的な学習、客観的根拠に基づく思考

グループ研究
ＫＪ法による意見集約
ディベート
研究レポート・発表用資料作成　など

②生徒の多様な能力を評価する手法

ルーブリックを用いた評価
ポートフォリオを用いた評価
論理的思考力客観テスト
英語４技能を測る外部検定試験　など

〇課題研究の全校指導体制（共通教材の使用）
〇複数の教員が関わる多角的・多面的指導体制

各教科指導への応用

教科のSGH化

SGHの効果③

学校の活性化

学習活動

学校行事
生徒会活動

部活動

他者との意見交換や発表による精神的たくましさ
深い思考、冷静な判断、的確な表現
生徒と教員（学校）がともにチャレンジする姿勢
「学び」を「行動」へ、そして「新たな学び」へ

〇地域が抱える諸課題への興味・関心
〇将来、地域のために貢献したいと思う使命感

学校を取り巻く地域全体の活性化

出雲高校この4年間の部活動の成績

SSH　　SGH

年度	主な成績
平成25年度	・弓道部男子全国選抜大会優勝 （平成19年度の女子全国選抜優勝に次いで）
平成26年度	・島根県総体男女総合優勝（初） ・島根県総体男子総合優勝（5年ぶり） ・コーラス部全国大会出場（6年ぶり）
平成27年度	・吹奏楽部全国大会出場（14年ぶり） ・美術部生徒農林水産大臣賞（3年連続）
平成28年度	・野球部甲子園出場（初） ・島根県総体男子総合優勝 ・弓道部男子インターハイ6位 ・島根県英語ディベート大会優勝（4年連続）

ご清聴ありがとうございました

出雲高校オリジナルキャラクター
「久徴いずもん」